

平成 2 2 年度

河川のモニタリング調査結果の概要

( 県民参加型調査 )

平成 2 3 年 7 月

神奈川県

## 1 調査の目的

河川環境のモニタリングを、県民にわかりやすい動植物やその他の多様な指標をもとに河川を調査するとともに、森林の管理状況などと密接に関連する河川水の窒素、SS(浮遊物質量)などの水質項目についても調査し、水源環境保全・再生に係る施策の評価や将来の施策展開の方向性について検討の基礎資料とする。また、これらの収集した時系列データを解析することにより経年変化を把握する。

本調査は、マクロな視点で河川環境を把握していくことにあり、個々の河川対策の実施効果を検証するための調査については、それぞれの事業等で実施するものとする。

## 2 調査対象河川

相模川水系及び酒匂川水系

## 3 河川水質の多様な指標による評価（県民参加型調査）

県民から参加者を募って調査を実施した。なお、調査に当たっては、調査の精度を確保するため、アドバイザー（専門家）により事前研修とともに、調査方法、生物の同定など調査中の指導を行った。

### （1）調査地点および調査時期

相模川流域・酒匂川流域や都市部の支川を含む任意の地点および時期に調査を行った。

### （2）調査項目

動植物は、底生動物、魚類および植物を調査対象とした。その他の指標は、国土交通省の「今後の河川水質管理の指標項目（案）」に基づく項目とした。

### （3）調査方法

動植物調査については定性調査とし、具体的な調査方法は調査マニュアル（平成19年度作成）の底生動物、魚類および植物を調査対象とした。その他の指標は、国土交通省の「今後の河川水質管理の指標項目（案）」に基づく項目とした。

## 4 調査結果の概要

### （1）応募人数

6団体と個人合計で66人の応募があった。

### （2）現地研修会

9回の現地研修会を開催し、延べ54人が参加した（写真参照）。

### （3）調査結果

調査は延べ20地点で行われ、水質、底生動物、魚類、植物等の調査結果が提出された。

## ア 水質調査結果

河川水質の評価項目とランクを表1に、県民調査員による水質の評価結果を図-1に示す。

ほとんどの地点が A ランク又は B ランクであり、水質から見ると“人が親しみやすい”流域であることがわかった。

## イ 動植物調査結果

県民調査員が調査し、アドバイザーが種のチェックを行った結果に、平成 20～21年度の専門家調査結果を加えた分布図を図2、3に示す。

県民調査員により、専門家調査が行われていない支流や上流部などで分布が明らかになるなど、専門家による調査だけでは把握できなかった詳細な分布データが得られた。

表1 河川水質の評価項目とランク

ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル			
			透視度 (cm)	ゴミの量	水におい	川底の感触
A	顔を川の水につけやすい		100以上	川の中や水際にゴミは見あたらな い。または、ゴミ はあるが全く気に ならない。	不快でない	不快感がない
B	川の中に入って遊びやすい		70以上	川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる。		ところどころヌルヌルしているが不快ではない
C	川の中に入れないが、川に近づくことができる		30以上	川の中や水際にゴミがあって不快である。	不快なおいを感じる	ヌルヌルして気持ちが悪い
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		30未満	川の中や水際にゴミがあってとても不快である。	とても不快なおいを感じる	



調査方法等研修風景



同定研修風景

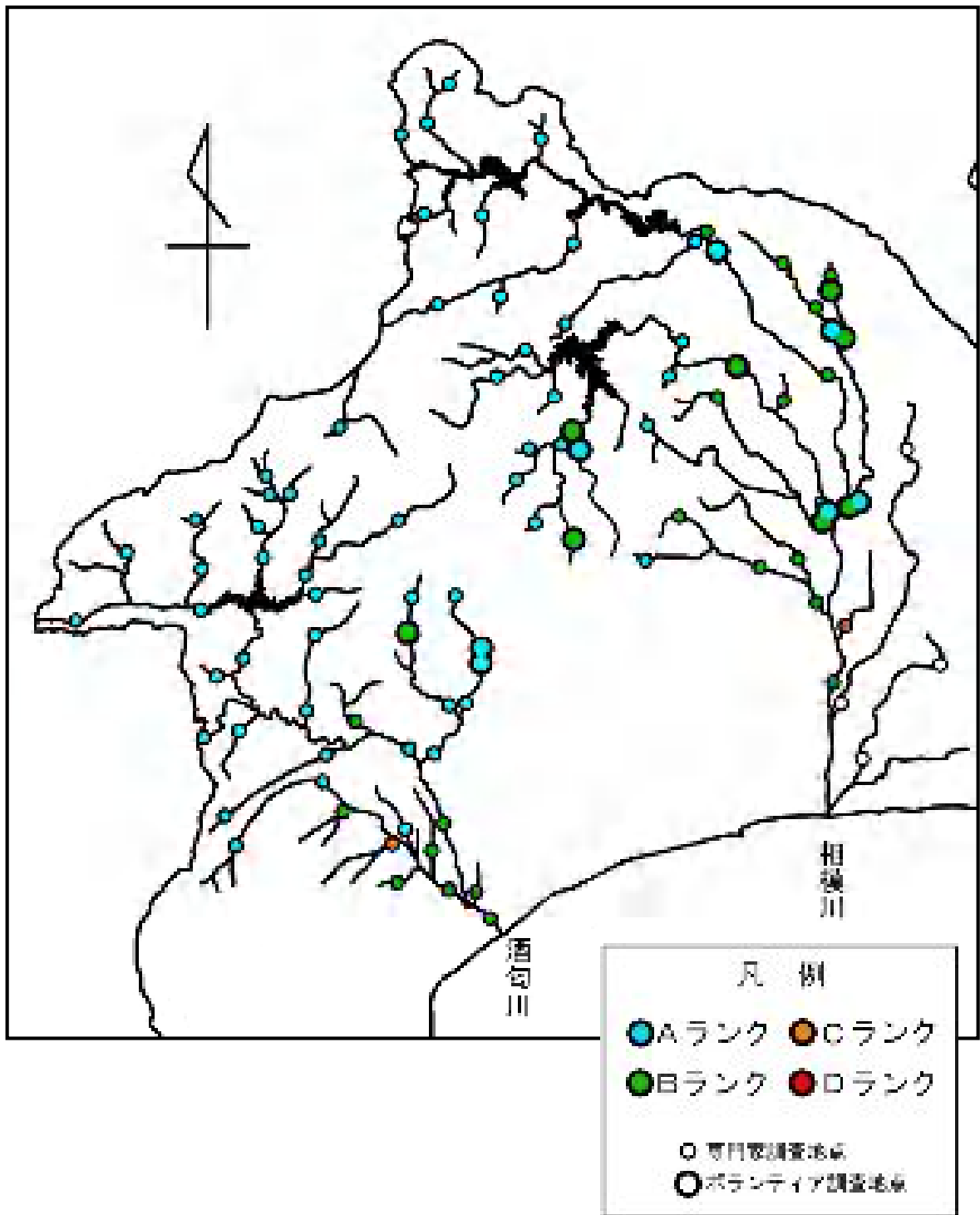


図 1 水質調査結果

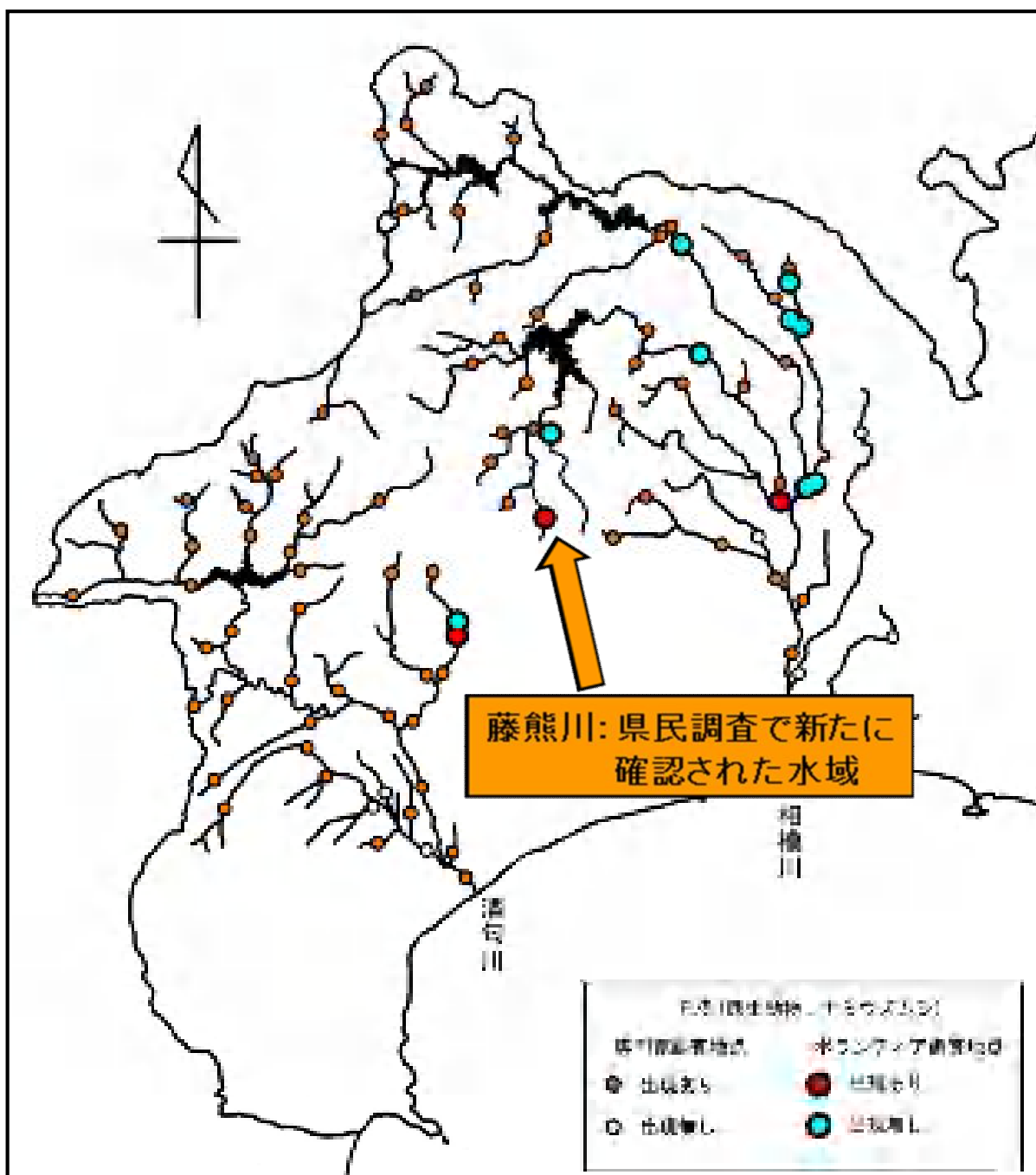


図2 ナミウズムシの分布図

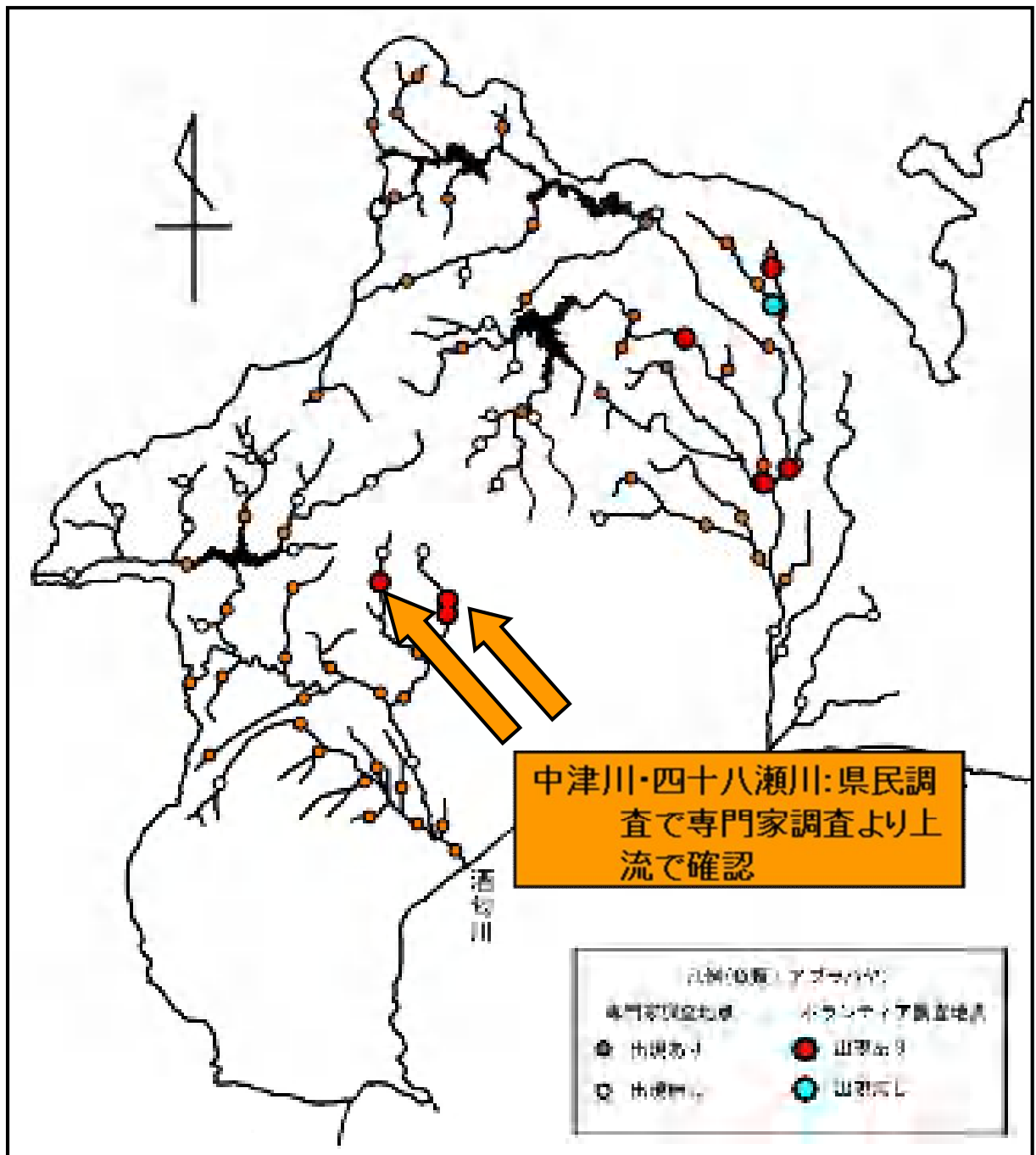


図3 アブラハヤの分布図